大豊村の概要
位置　東経 133度37分　北緯 33度56分
面積　320.54平方粁　東西 32粁
南北 28粁　部落数 88
人口　12,732　男 6,085　女 6,447
世帯数　3,732（10月末現在住民基本台帳調）

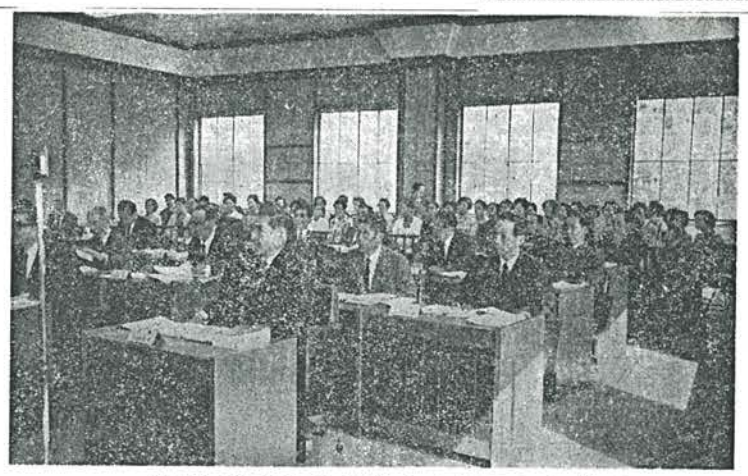
館報 大豊

昭和46年12月10日発行
全世帯配布
編集　館報大豊編集委員会
発行　大豊村中央公民館
印刷　高知印刷株式会社

〝町制〟万場一致で議決

定例議会

大豊村九月定例議会は、三十日開会、一千九百九十九万円にのぼる一般会計補正予算、各特別会計補正予算、昭和四十五年度決算承認、大豊村を大豊町に変更する議案など、一連の重要案件を審議して十月七日討論採決、八日間の会期を終りました。



〝町制〟議案など審議する緊張した議場

明春四月 大豊町に

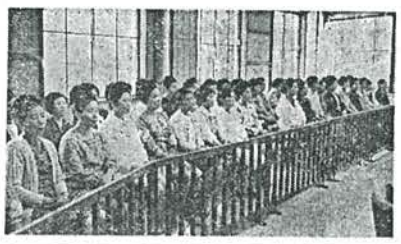
老人に医療費を支給

議決された議案の主なものをひろってみると「中央広域市町村圏協議会」を設置すること、75才以上の老人に医療費の全額に近い額の給付を行なうこと、昭和四十五年度に決定した過疎地域振興計画が、その後の情勢の変化で現実に即さなくなった部分を変更するもの、九月三十日に任期満了となる教育委員の後任委員を選任することについて、議会の同意を願うものなどで、特に、注目されるのは「大豊村」を「大豊町」にすることが万場一致で議決されたことです。（村では、この議決に基づいて、高知県知事に対し、町制移行への申請手続を行ない、県議会の承認を得て、明年四月一日大豊町として新発足する見込み）

補正内容の主なものは、村道改良、索道新設等の集落補強事業費として三百九十万円、農林施設等災害復旧事業費として三百七十七万円、がけくずれ防災工事費百八十九万七千円、教育費として、大杉中学校寄宿舎建設工事費三百十二万八千円、大豊中学校の環境整備事業費二百三万円等をそれぞれ補正。

さらに十月十九日には、臨時議会を招集、懸案の「大豊村学校給食共同調理場（給食センター）新築工事請負契約締結に関する議案を審議し、契約金額一千三百万円を議決した。

なお、新しい教育委員には、秋山信吉氏（54）が再任されました。



傍聴する村婦人連

生産意欲燃える

村長らから激励

大豊村特産物コンクール

第十二回目の大豊村特産物コンクールは九月十七日、豊永公民館で開かれました。当日は、あいにくの雨にたたられ人の出足もにぶりましたが、出品物は台風二十号の被害にもかかわらず七十三点をかぞえました。

生産に意欲を燃やし、生きがいを求めて村の発展に努力をつづけている人達が早くから会場につめかけ、出品された一つ一つの特産物を食い入るように見てまわり、今後の課題発見につとめておりました。

以下は嶺北農業改良普及所大豊支所長和田幸雄氏の当日の審査評の要点と品目別入賞者氏名です。

本日の特産物コンクールは、木村の基幹作目である冷涼野菜を中心として、栽培技術の向上、品種の改良を目的として木村園芸の発展に寄与せんとするものであり、今回で十二回目を迎えるに至ったことは誠によろこばしい。

審査は県、役場、農協、市場の練達した審査員により厳正公平に実施した。以下は種類別とその概要。

●トマト＝台風二十号の災害、吸収夜蛾の被害があり生産には必ずしも好適の気象条件ではなかったが、優良な出品物が比較的多かったことは、生産技術向上の賜物と考えられる。出品物の中には、風ずれや結実の悪いものがあったが、これは台風のために止むを得ないことと思う。ただ、玉ぞろい、着色のそろいについては、なお選別を加えて出品していただきたい。

●ピーマン＝品質的には申し分なかったが、出品物のつめ方の統一をしていただきたい。

●アキマメ＝ピーマンと同じく品質は申し分ないが、つめ方を統一してほしい。

●その他のものにつきまして、「ゆず」の出品が多くありましたが、栗と共に地区の特産として伸ばしていただきたい。

村長から励ましとおほめの言葉をうける受賞者たち

また、きゅうり、菊、キヌサヤ等の生産も今後ふやしてもらいたいと思う。出品のうち、特に本村で栽培面積の多いトマトについて今後の課題を四点程申し上げたい。

第一には、今年は特に吸収夜蛾の発生が全村的にあり大きな被害を受けたが、この夜蛾対策と袋かけの省力化をねらったカンレイシャ等の利用の研究が必要である。

第二は、年々災害を受ける台風を回避するために、圃場の選定、防風ネットの利用等考えてゆくことが必要であると思う。

第三には、萎凋病対策として、接木栽培、あるいはこれに強い品種大成などの導入が必要でないかと考える。

第四には、稲作転換の関係で、水田利用の関係が多くなったが、元肥の量が畑よりも半量以下におさえることが大切で、肥料がすぎるとマドアキ病や、軟腐病の発生の原因となるので注意していただきたい。

なお、全体についていえることは、市場に出荷されるものはいつ抜取検査をされるかも知れないし、そのことよりも、人の健康を害さない農産物の生産ということから農薬は決められた基準外には使わないようにお願いする。

以上、出品物について種類別、全体的に注意すべき点を申し上げたが、今後共生産技術の向上により良い品をより多く生産してゆくことが、大豊村の園芸を発展させるためにも特に肝要ではないかと考えられる。

▼トマトの部＝県知事賞渡辺則夫（西土居）、大豊村長賞下村晥徹（岩原）、高知県園芸連会長賞笹岡甚男（蔭）高知青果市場賞小笠原賀穂（野々屋）

▼ピーマンの部＝大豊村長賞秋山秀喜（奥大田）、高知青果市場賞笹岡恒芳（土居）香森青果市場賞松高福重（佐賀山）

▼アキ豆＝大豊村長賞三谷隆郷（佐賀山）、高知城東青果市場賞秋山秀喜（奥大田）南国市中央青果市場賞三谷憲秀（佐賀山）、南国市共同青果市場賞三谷雄幸（佐賀山）

▼キュウリ＝努力賞桑名良雄（西梶ケ内）

▼キヌサヤ＝努力賞三谷鹿盛（三谷）

▼ユズ＝努力賞　三谷雄幸（佐賀山）同下村晥徹（岩原）

▼キク＝努力賞　西谷章博（上東）

▼栗＝努力賞朝日亀輝（船戸）

高知県農山漁家婦人大会に出席して

嶺北地区生活改善実行グループ連絡協議会長　小笠原良恵

去る九月七日、高知市農協会館に於て、第二回大会が開催され私達大豊村生活改善グループ員も三十一名出席致しました。昨年にまさる盛況、これも日頃私達のために御指導、御援助下さる村並びに普及所の方々の御努力のあらわれと心から感謝し御礼申し上げますと同時に今迄のグループ活動によって培われた向上心と、円滑な豊かな人間関係を大切に成長させたいと思っております。

私達主婦も大きく揺れ動くこの経済社会の波の中で衣食住の改善から、農業技術の習得、農家経済のにない手としての勉強もつんで行かなければなりません。

一人でも多くの仲間と一諸にこれからの農家の諸問題を勉強して行きたいと思っておりますものの、運営資金が少なく、会合の集いの場所がないという問題点が残されております。

戸手野に完成したあの立派な生活改善センターを、今一つこの広大な農協理立地へ、一日も早くこういう施設を建設して下さるよう村当局並びに関係者の方々へお願い致します。あわせて活動資金の御援助を私達は切実に願っております。

生活改善グループ全国連絡協議会の今年度のモットーは、「人びとの創意できづくゆたかなくらしと住みよい社会」です。地域社会の発展が大きく広がって行く事を信じながら微力を尽くしたいと思っております

引揚者特別交付金

請求期限が延びました

引揚者特別交付金の請求期限が、昭和四十七年三月三十一日まで延長されましたので、該当者の方で未請求の方は、役場へ手続きをして下さい。

火の用心

一秒！…あっという間に大火になります。石油ストーブ、石油コンロ、ガスコンロ、ベンジンなど引火危険物の取り扱いには特に注意してください。

大豊村消防団

タバコは村内の販売店で！

昭和45年度中にタバコ消費税として2,150万円が大豊村に納入されています。タバコは村内販売店でお買い求め下さい。あなたが村外で買われますとタバコ消費税は村外に流れ、大豊村の収入になりません。

年末年始の御贈答用に、出張に、旅行に、出稼ぎなどにも必要量だけは村内の販売店でお買い求め下さい。

（税務係）

長州志士 富永有隣と土佐

（5）

県文化財専門委員
橋詰延寿

有隣を命がけで守る
偉大な人物だった大石圓

□……土佐勤王党育ての親……□

富永有隣をかくまったということで、松山の獄に入れられた大石圓は、土佐勤王党の育ての親であり、かつ参謀でもあった。彼は東郡きっての偉大な人物で国学者であり、且つ砲術、兵学も修め、明日の日本の見える偉大な政治家でもあった。

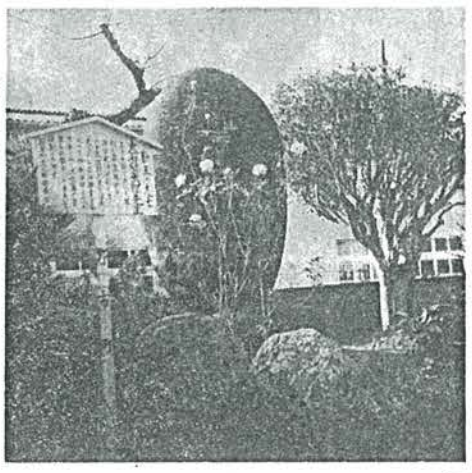
私は先日、香美郡野市町の教育委員会を訪ね、安岡教育長、中央公民館主事の岡崎年水君にお世話になった。そうして、大石圓の旧宅や墓地を訪ねた。

大石圓先生頌徳碑

士ノ先憂後楽ヤ難シ　猶梅花ノ春ニ先チ松柏ノ後ニ凋ムノ類歟　我州勤王ノ唱首大石圓先生ノ如キハ蓋シ人中ノ梅花　士林ノ松柏ナリ　先生初名ハ元敬　弥太郎ト称ス　香美郡野市村ニ生ル　天資明敏果断　学和漢ニ通シ武技ニ精シ　幕末綱紀ヲ解キ外警荐ニ至ル　先生笈ヲ江戸ニ負ヒ交ヲ天下ノ士ニ納レ　慨然尊攘ノ説ヲ鼓舞ス　先生書ヲ飛バシテ武市瑞山ヲ土佐ニ起シ勤王同盟ヲ企ツ　先生乃チ檄ヲ草シ血ヲ刺シテ互ニ相誓フ　土佐勤王党是ニ於テ興ル　而シテ瑞山之ガ魁タリ　蓋シ先生啓発ノ賜也既ニシテ藩主上洛朝勅ノ挙アリ　勤王三藩ノ名始メテ揭ル　実ニ先生与リテ力アリ　先生又藩命ヲ奉ジ鎮西ノ勅静ヲ探ル　適々幕府長崎ニ蘭銃ヲ購フヲ見テ独断之ヲ強要シ後罪ヲ藩ニ乞フ　藩復タ問ハズ土佐ニ尖弾銃入ル之ヲ濫觴ト為ス　即チ先生ノ功也　尋デ瑞山ノ党獄起ル　先生同志ト倶ニ死ヲ期シテ赦ヲ請フ　皆省ス　戊申東征ノ役先生藩軍小監察タリ　帷幄献替ノ功頗ル多シ　乱平ギ格禄ヲ賞進サレル維新中興ノ後先生官ヲ退テ復タ出デズ　長州富永有隣ノ土佐ニ匿ルヤ先生義之ヲ掩護ス　事露ハレ獄ニ坐スル累月寃白シテ罪ナキヲ得タリ　晩年朝廷前功ヲ重ンジ従五位ニ叙ス　布衣此栄アル　蓋シ希ナリ　先生歿スル時八十八歳　節操清厲老ニ至ルモ結髪故態ヲ改メズ　毎朝東向帝東ヲ拝シ天神地祇ヲ禱ル　尊王敬神ノ念須臾モ渝ラズ　嗚呼先生ノ如キハ季世罕覯ノ国士ト謂フ可シ　有志義醵碑ヲ桑梓ニ樹テ功ヲ貞珉ニ勒シテ不朽ニ伝フ

大正八年四月滄溟学人
宇田友猪謹撰
川谷広次敬書

大石圓の伝記は以上の頌徳碑でその大体がわかる。富永有隣を保護し、彼を愛し、命がけで守った人物として、もう少しつけ加えよう。



大石圓の頌徳碑

□……郷土の家……□

彼は、香美郡野市村(町)下井八番屋敷に生まれた。父は大石元介で母は婦帰、姓は黒岩氏で、黒岩常五郎重長の長女である。その長男として圓は文政十二年(一八二九)十月十七日に生まれた。父親元介は、明治七年(一八七四)九月八日八十三歳で没しているから、富永有隣が大石家を中心にしての逃亡中である。母親は慶応二年(一八六六)九月十六日六十七歳で没しているから、圓が小軍監として東征の時はすでにない。

圓の祖父は弥市郎利之で文化十三年(一八一六)正月二十九日没八十五歳、祖母は池内与市右衛門の四女で文化二年(一八〇五)十一月十四日没六十七歳である。いずれも郷士同志の結婚であり長寿者が多い。圓自身も八十八歳の米寿を保ち、大正五年(一九一六)十月三十日死亡している。古川山の墓碑も寺石正路撰川谷広次書、従五位の大きな碑である。

□……旧邸は別系の人の住居に……□

さて、野市町下井の大石圓の旧邸には、横田繁(八二)さんがいた。いま一人小枝さんがいられた。この小枝さんのご主人が志朗さん(五一)で繁さんの三男で、繁さんの三男現在朝倉の林業試験場勤務ご住居は高知市伊勢崎町一―二二、公務員官舎にいられる。

繁さんの話によると、繁さんは大石圓邸のすぐ西隣り旧姓水田である。姉が忠於(昭和二十三年六十一歳で死亡)が生存中、大石勝彦さんの奥さんに金を貸した。勝彦さんから終戦の前後、土地、建物を全部譲渡したものである、こう語る現在の繁さんは八十二歳とは思われない元気さである。

繁さんは、徳王子の横田徳次に嫁したが、ご主人徳次さんが昭和三十四年に死亡したので、徳王子から来てこの屋敷に住んでいる。だから全然別系の方になっている。しかし、嬉しいことに所有者の横田志朗氏が偉大な人物の旧邸だというので、古いものを残すことに力一ぱいの努力をせられている。昨年の台風十号でひどい目にあったが屋根瓦は全部ふき替えている。

□……圓栽培のユズも……□

大石圓の旧邸は、一町四方ほどの広さといった方がよい。一反歩はあるだろう南方は開けている。はるかに土佐湾の松林と人家が。北も西もずっと開け、東には古川の墓地のある丘陵が見える。土佐電鉄古川駅から西北、野市駅から東南の田園の中である。近くを野中兼山の治水の下井がさらさと流れている。

高い練塀と、生垣をめぐらしている。屋敷には桜梅、竹、柿、ボケ、ユズ、サツキ、椿、八ツ手、大きな楊梅の木もある。特に桜は四が大事にし、ユズは彼自身が植えたという。

庭の大きな踏石や、手洗鉢はそのままである。富永有隣も、この踏石をふんだことであろう。手洗鉢にいくたびか柄杓を入れたことか。

平屋の本宅は、当時は部屋が八ツあった。今の四半分を残して四ッ部屋がある。床の間は八畳、六畳、玄関四畳半、奥がまた六畳である。それに内縁と外縁がついている。襖は張りかえているが、大きい。家の内はそのままである。前庭の東側には道場があったとか。それはとりこわしてあるが大きな土蔵と、広い裏庭がある。

東豊永発電所の歴史と現況について

（2）

東豊永発電所
福留　亮

		昭和23年	現在の状況
東豊永発電所	出力	KW 4000	KW 6000
	人員	名 32	名 8

今回は東豊永発電所の変革とその理由について申し述べてみたいと思います。

変革の大要は上表のとおりであります。

何故このような変革が必要であるかといいますとこれは電気料金安定化のための数々の企業努力の中の一つでもあります。全社的な企業努力としましては下表のようなものがあります。

四国における電力需要の

		26年度	45年度	45/26
送配電損失率	(%)	32.7	7.6	
火力発電所の熱効率(発電端)	(%)	17.2	36.9	
水力発電所	無人個所	0	22	
	総数	60	68	
変電所	無人個所	0	56	
	総数	75	124	
労働生産性の向上(万KWH)		17.7	125.0	7.1
従業員数	(人)	7,058	6,291	

伸びは著しく、昭和四十四年から五十年の間の平均伸び率は一九・八%と予想されており、昭和五十年度の電力需要量は現在のほぼ二・五倍に達する予定です。

また昭和五十年度の高知県内の需要量も現在の約一・七倍になるものと想定されこの急増する需要に対処して計画的に電源の開発拡充につとめ、電力の質量両面において安定した供給をはかることがとくに重要であります。

このようなとき高知県における発電の現状はといいますと、昭和四十六年七月十五日午後二時の一面をとらえてみますと次のとおりであります。

県営二・八、他県より受電九・二、電発九・二、四国電力県内発電電力一六・六(単位万KW)高知県内電力消費量三六・九万KW

このように高知県は当社だけの発電能力では需要を満たすことができず、その三分の一を電発や他県から融通を受けている実情です。あらゆる場合を想定して見ましても、電力の質量両面において安定した電気を高知県の皆さんに使っていただくためには高知県内の電源の開発が急務であります。このような情勢下において大豊村をはじめとする地域の皆様の産業の振興と生活水準の向上をはかるための電気を生産する私達職場の責任はまさに重大でこのため私達は高知電力所長とともに日夜努力している次第であります。大豊村が東豊永発電所と切っても切れない関係がありますように、高知県内の発電所と県民の皆さんとも生活を通じて直接に間接に結びついております。高知県内の電源で高知県の消費を達成することができないことはまことに残念であります。

次回は台風期に発変電所を守る私達の苦労話について述べてみたいと考えております。

（つづく）

国道32号線の舗装

大杉中学一年　鍵山理恵

受賞作文

第二十三回国土建設推進運動行事の一つとして行なわれた国土建設に関する作文で、大杉中学校一年生の鍵山理恵さんが知事表彰を受賞しました。（写真は鍵山理恵さん）

昭和三十八年四月――

その日、現在小学二年の妹が出産しそうになったので、タクシーにとび乗り、一家で朝倉の国立病院に向っていた時だった。その時私はどこへ行くのかもまるで知らなかったので、ただ生まれて始めて見る景色にみとれて、外ばかりながめていた。ふと根曳坂にさしかかった時、「おやっ。」と、おどろいた。山をくずし、土を運び、緑の山が赤茶色の肩を表わしている。「いったい何をしているのだろう？いったい何をするの気なんだろう？」

もはや私の小さい胸の中は好奇心で満ちあふれていた。事実これは国道32号線の拡張工事であった。まだ小さかった私なので、はっきりした記憶は持っていないが、とにかくびっくりしたことだけは、強く印象に残っている。何台ものブルドーザーが山をくずし何台ものトラックが、その土を絶えまなく運ぶ。「ガーガーガー。ドドド。」と、大きな音をたてながら。そのあとには、もう、広く、大きな道が生まれている。まだ舗装もされていない、でこぼこのほこりのたつような道。決して立派とはいえない。そのような道だが、それでも何か私をひきつけるような大胆さがあった。

「大きくて、まっすぐで…今までに見たことのないような道だ。」と、私を感心させるような……。

それから一ケ月たち、今の妹が無事生まれ、肥立ちもよく、ひさしぶりに我が家に帰る時もあの道を見てみた。すると、もうすでに白いじゃりがしきつめられて、平らな道路になっていた。そして一ケ月位たってここを通った時には、アスファルトで固められ灰色の帯のように、まっすぐな美しい道路となっていた。

それから二年後の夏。数十人の人達が、ドリルやスコップを手に家の前の山をけずっていた。

「何をしているのだろう」と思ったとたん、「あっそうか。」と思い直した。いよいよ大杉の国道も舗装されるのである。あの根曳坂のように。そう思うと、なんだかうれしくなり、まっ先に母にこのことを知らせたことだった。

そんなある日。毎年、必ず高知県をおそう、台風がやってきた。そんなに大規模なものではなかったが、雨が多量に降ったようだ。突然夜中の一時ごろ母に起こされた。そして、ねむい目をこすり、教科書など貴重品をかかえ、そのころ新しく建てていた家に逃げた。後で聞いてみれば、けずっていた山がくずれて、家の前まで大きな岩石が落ちて来たため「あぶない!!」と思ったからだそうだ。ということなどなど全く忘れてしまった。

こうして国道32号線は、すっかり舗装された。しかし舗装されて良いことばかりではない。そりゃあ、どろも跳ねられず、家もほこらず、交通も便利になったことは確かだ。しかし、それとは逆に、今まで聞いたことのなかった交通事故が一段とふえた。一日一台は必ず、多い時には二、三台も行く救急車。現に私の妹も事故にあっている。幸いたいしたことはなかったが。

私は、こういうことがないように、車の数の多い所には、信号をつけたり、歩道橋を作り、歩行者専用の道路をふやしたりして、利用する人々からも、工事をした人達からも、「舗装してよかったね。」とお互いに喜こべるような工事をしてもらいたいと、心から願っている。

（七月十三日受賞）

編集後記

◆…一年のしめくくりと新しい年を迎える準備をふくめて、なんとなくいそがしい月ですが、交通三悪に注意しましょう。（中西）